

## 自然体験活動から水難救助等の実際をレポート

# 各地に広がる水上オートバイの貢献活動を再認識したシンポジウム

主催 NPO 法人パーソナルウォータークラフト安全協会

「PWCによる貢献～地域社会のためにできること」  
～ PWCの社会的活動の現在・過去・未来～

催事名:「PWCによる貢献～地域社会のためにできること」～ PWCの社会的活動の現在・過去・未来～

開催日:2013年11月14日(木)(午後2時～5時) 会場:福岡県福岡市(ハイアット・リージェンシー・福岡)

主催:NPO 法人パーソナルウォータークラフト安全協会(PWSA)

後援:国土交通省

日本財団助成事業

水上オートバイ = Personal Water Craft=PWC

NPO 法人パーソナルウォータークラフト安全協会(以下、PWSA)では、2013年11月14日(木)、福岡県福岡市内にて、「PWCによる貢献～地域社会のためにできること」～ PWCの社会的活動の現在・過去・未来～を開催しました。マリネジャーへのエントリービークルとしても注目を集めているPWCによる地域貢献活動の報告を軸に、それらの情報共有と発信を目的に行われたものです。これまでも各地で多様なスタイルで社会、地域に貢献しているPWCの実例が紹介されたことを受け、「役立つ手軽な海の乗り物」であることを再認識し、周知徹底していくことが今後の優先課題であることを確認しました。

開会に先立って、主催のPWSAの竹長 潤会長は「PWCは一般ではネガティブに扱われることが多いが、2011年の3.11での被災者救助での活躍に代表されるように、社会貢献活動の認知拡大していきたい」と今回のシンポジウムの主目的を説明。また特殊小型船舶免許取得者の2桁伸張に触れ、マリネジャーを始めるのにふさわしい乗り物であることと、社会との共生のためにルール、マナーの啓発活動にも務めていきたいと結びました。後援をいただいた国土交通省(海事局船舶産業課舟艇室)の岩本泉室長は「舟艇を振興する立場として、マナーの啓発、ゲレンデの確保等の課題がありますが、PWCによる社会貢献活動をもっと認知拡大していくことが大切です。騒音、暴走等の苦情も寄せられることがありますが、このシンポジウムのような取り組みで周知していくことが必要と思います。国土交通省でもPWCの適正利用のためのゲレンデ、マリーナの調査を実施しています」と挨拶をいただきました。

第1部は、マリンスポーツ実習、海洋性レクリエーション論、海洋スポーツ科学を専門に東京海洋大学で教鞭をとる千足耕一氏による「水辺での体験と教育～PWCの可能性～」、続いて、PWCを用いて水難、海難救助の支援活動を展開しているマリネパトロールステーション

福岡の代表を務める竹田聖也氏の「博多湾水域におけるPWCによる水難救助活動のあゆみとこれから」というそれぞれをテーマとしたお二人による基調講演がありました。

パネルディスカッションでは、伊万里、宮崎、高知、大阪の4地域におけるPWCでの活動報告をもとに、社会、地域、行政や公的団体との連携、水面利用のルール作り、またマリネジャーに関わる人、組織の責任等について発言がありました。

会場には国土交通省や地元九州運輸局、PWSA 会員、マリネジャーに関わる事業者、ボランティアグループ、行政関係者約80名が参加し、「教育機関でのPWC活用の実例紹介」や「水上バイクの水面利用のための調整、ルール作り」、「消防署と消防団の位置づけ、関係の図式を海上保安部とシーバードの関係に置き換えて取り組みを」等、活発な意見交換が行われました。閉会の辞では、本事業の助成団体である日本財団の海洋グループ海洋安全・教育チームの荻上健太郎リーダーが、「今日発表された事例のような日常的な取り組みが大切という思いを共にもって、助成事業かどうかや、どの所属かという枠に留まらず“皆さんとともに作り上げ”前に進めていきたいと思います」と締めくくりました。

登壇者発言要旨(発言順) 敬称略	
	<p>千足 耕一 (ちあし こういち) 東京海洋大学 海洋科学部</p> <p>海での活動をめぐる最近の統計、マリンスポーツによる地域貢献の可能性、海面利用者対象の意識調査等、豊富なフィールドワークに基づいて、「水辺での体験と教育～PWCの可能性～」をテーマにお話いただきました。</p>
	<p>竹田 聖也 (たけだ としや) マリンパトロールステーション福岡 代表</p> <p>平成 17 年からの対 PWC ユーザーの「安全指導」、「安全啓発活動」、「海難救助活動」の活動報告と PWC がいるから安心といわれる社会を目指した「博多湾水域における PWC による水難救助活動のあゆみとこれから」を発信していただきました。</p>
	<p>山口 富士夫 (やまぐち ふじお) NPO 法人 日本青パイ隊</p> <p>「PWC を活用した地域に密着した活動展開」をテーマに PWC ユーザーのマナー向上、PWC によるイベント警戒、救助支援、環境保全、体験学習の諸活動によるマリンレジャーの普及・振興事例を紹介していただきました。</p>
	<p>藤田 和人 (ふじた かずと) NPO 法人 宮崎ライフセービング協会 理事長</p> <p>平成 17 年台風 14 号被災時に PWC での救助活動の実績を基に 19 年に創設された「宮崎市消防団機能別団員 水上バイク隊」をテーマに、PWC の機動力と「カッコ良さ」で減少している消防団も元気にする活動をお話いただきました。</p>
	<p>辻本 幸生 (つじむら ゆきお) NPO 法人 さめうらプロジェクト 理事長</p> <p>守る(環境保全、安全利用、健全なフィールド作り)、遊ぶ(観光、スポーツ振興)、学ぶ(人材育成、体験交流)の三本柱を掲げ、ダム湖での「日本一愛されるセラピーレイクを目指して」をテーマに地域活性化ビジョンを発信しました。</p>
	<p>瀧本 一 (たきもと はじめ) NPO 法人 PW 安全協会 大阪支部長</p> <p>国土交通省近畿地方整備局との連携による河川での利用ルールの策定等、実務の蓄積からの提案、また PWC による水難救助での生存率向上のための機材開発まで「淀川河川の管理と社会貢献事業」をお話いただきました。</p>



PWSA

竹長潤会長



国土交通省

岩本 泉 舟艇室長



日本財団 海洋グループ

荻上健太郎リーダー

PWSA 会員をはじめ国土交通省や九州運輸局、マリンレジャーに関わる事業者、ボランティアグループ、行政関係者、約 80 名が参加 (ハイアット・リージェンシー・福岡にて) 敬称略

## 質問・意見等

( 参加者からの質問等)( パネリストからの回答・意見)

---

(熊本県 PWSA 会員)このままの状態では PWC が締め出されるのが予測される。ルール作りや地域行政、公的団体との連携のためのきっかけ作りを教えて欲しい。

(瀧本)守るのではなく、利用のルールを関係者が作り上げていくという取り組みが大事だと思う。

(竹田)熊本はギスギスした環境ではないので、安心感がある。いい人、いい店にはいいユーザーが集まる。そうした視点でいい店、いい活動を率先していくことが大事だろう。社会人として何をすべきか、またお客様満足度向上のためにすべきことに取り組みばいいと思う。「May I help you?」の心がけが大切だ。

---

(シーバードサーフ 90 藤沢)シーバードの活動をさらに充実させたい。消防団との連携を構築するために、自治体や公共団体へのアプローチの仕方を教えて欲しい。またその場合の注意点やメリットはなにか？

(藤田)宮崎では「市」が付いていることが大きい。ライフジャケットの背中にも「宮崎市」と書かれているので、それによる抑止効果は大きい。また「渚の交番」という施設もあって、地域での認知度は向上している。

---

(山口県大島商船高等専門学校)「教育現場でも活用されている PWC」も社会貢献、地域貢献のひとつであると思う。広く PR する材料として活用してはどうか。

---

(長崎県佐世保から参加)陸上での消防署と消防団の協力関係という相関関係を、海に置き換えてみて、海を守るという視点で、海上保安部とシーバードという関係、役割分担にならないだろうか。今後の取り組みにあたって考えていただきたい。

---

(国土交通省九州運輸局:天野)津波や高潮発生時の人命救助に貢献できることが理解できた。水上バイクの保守・点検(船検含む)の啓発活動にも力を入れて欲しい。

---

(マリス:梅田)イメージの悪い水上オートバイを変える、人材育成(業界含む)、教育システムの構築。免許システムを含めて見直しが必要では。

---

(サーフ 90 藤沢ライフセービングクラブ:服部)藤沢市の「海浜ルールブック」についてです。ルールの周知方法について検討していますが、普及していないのが現状です。

---

(PWSA 会員)これからの PWC の可能性、将来について考えていくべきこと、活動すべきことがたくさんあると感じました。しかし、まだまだ協会の中でも一部の方の活動、意見しかとれていないのではないかと思います。もっとたくさん使用している人、全体を見るべきではないでしょうか。自分もたくさんの方に PWC の魅力を伝えていける活動をしたいと思います。

---

(ホットウォータースポーツマガジン長谷川)PWC によるたくさんの地域貢献、社会的活動がなされていることを改めて認識した。PWC の専門誌として、1 箇所(活動)を毎号紹介していきたい。情報や素材の提供をお願いしたい。

---



< 本件に関するお問い合わせ >

特定非営利活動法人パーソナルウォータークラフト安全協会 本部事務局  
電話 078-920-1091